



つじむら たける  
**辻村 岳瑠** 議員  
(政経会)

## 新型コロナウイルス感染症発生施設への人員確保案と検体採取案について

**問** 医療・介護コロナ救援チームを結成し、人員不足に陥った施設を援助する必要性は。

**部長** 県が進める応援職員の登録体制の動向も注視しながら、富士宮市介護保険事業者連絡会などの関係団体と一緒に検討していく。

**問** 感染症発生施設で検体採取できる体制づくりの必要性は。

**部長** 施設で検体を採取し、速やかに検査の結果が分かるような体制があれば、そこで働く職員や高齢者などの施設利用者の方の負担を軽減するメリットはある。しかし、鼻の奥まで検体採取の綿棒を入れる必要があることから、くしゃみにより医療従事者の感染リスクが高まる課題がある。医療従事者の安全性を確保した上で医師の協力を

得ることが大きな課題であると考えている。

**問** 施設医、現場の看護師の判断で検体採取を行うという仕組みづくりはどうか。

**部長** 専属の医師、あるいは看護師がいる所は限られている。市の姿勢としては、市内全域すべての事業所に対応ができる、そういった制度を考えているところ。

## 新型コロナウイルス感染症における差別偏見から市民を守る同報無線について

**問** 新たな感染恐怖、差別、偏見から市民を守る同報無線の必要性は。

**部長** 市長自ら同報無線により放送している。

**意見** 放送の内容は市民を何としても守りたいという市長の想いであると思う。しかし、感染症で既に傷つけられている方からすると、どうしても聞きにくさがある。市民の感情に鑑み、同報無線の市長の言葉の前の「メッセージ」という表現を「お願い」という、より市民に聞きやすい表現にすることの検討をお願いしたい。



なかむら けんいち  
**中村 憲一** 議員  
(令和)

## コア・エグゼクティブ論<sup>※1</sup>とプーリング型総合調整<sup>※2</sup>から考える部門越境的行政課題解決

**問** 水道部と環境部に横断する課題である下水汚泥の有効利用はどのように取り組むのか。

**部長** 環境部を含めた他部と緊密な連携を図り、各地の燃料化、発電等の実証実験を参考にしながら、行政コストの縮減や環境に配慮した活用方法について調査、研究を進める。地域循環共生圏推進協議会において、下水汚泥の有効利用に関して2つのプロジェクトが提案されているが、民間主導の実証段階以前の提案レベルのものであると認識している。

**問** 産業振興部と環境部に横断する課題である農林漁業の健全な発展と調和のとれた再生可能エネルギー電気の発電の促進に関する法律に基づく基本計画はどのように取り組むか。

※1…中核的執政

※2…各部署資源を集中し調整すること。

**部長** 基本計画作成において、家畜ふん尿が産廃に該当するので廃掃法、プラント内で発生する消化液の排水処理施設を設置するので水質汚濁防止法について県との協議で環境部と連携。事業者に対し設備整備計画の提示を求めているが、再度収支計算をしたところ採算が合わないため、基本計画の修正を含めた新たな事業提案が示された。実現可能性は非常に難しい状況。

**問** 全部門に横断する行政のデジタルトランスフォーメーション<sup>※3</sup>についてどう取り組むか。

**部長** 全体を統括する部署の設置が必要不可欠であり、令和3年度に情報化計画を所管する現企画部電算統計課をデジタル推進課に改称する予定。同時に行政経営、総合調整の必要性の観点から、行政事務のデジタル化の推進を専門に担当する職員を総務部行政課へ配置する。

## ポストコロナ、アフターコロナ、ウィズコロナ時代の敬老会、成人式の在り方について

**問** コロナを機に運営方法を見直すべきでは。

**部長** 敬老会、成人式共に現状維持とする。

※3…デジタル化による変革のこと。